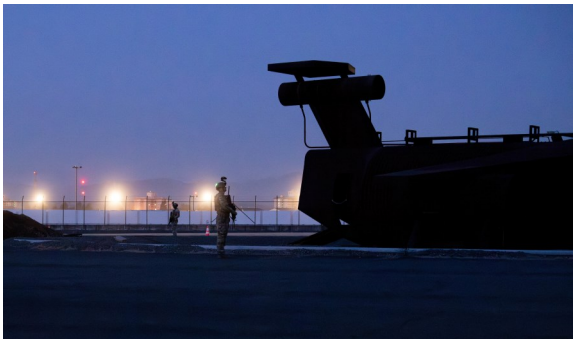
第374憲兵中隊　FASコースを実施し、即応態勢を強化

374 SFS conducts FAS course, advances readiness

Apr. 7, 2025

By Senior Airman Alexzandra Gracey
374th Airlift Wing Public Affairs



3月14日、満月の光に照らされながら、第374憲兵中隊の隊員3人が完全武装し、銃を構えながら移動を続けた。4日間にわたるFAS（フライ・アウェイ・セキュリティー：飛行随行警備任務）コースの最終段階である野外演習が始まり、FASチームリーダーとしての即応能力の検証が行われた。

第374憲兵中隊の教官ローガン・ホッチキン上級空兵は「FAS任務は、少数の憲兵隊員が航空機に同乗し、安全が確保されていない、もしくは極めて危険な地域で乗員や貨物を警護する特殊任務のことをいう。現在のインド太平洋地域における脅威環境を踏まえてこのFASコースを設立し、チームリーダーと隊員が、任務前の計画、実行、報告までを遂行できるよう訓練する」と説明した。

第374憲兵中隊は、太平洋空軍で最も多いFAS任務を担っている。横田基地からインド太平洋全域に憲兵が派遣されており、資格を有するチームリーダーが任務を成功に導いている。

今回のコースに参加した3人のうちの1人、第374憲兵中隊の小隊下士官責任者ハンター・ラボイ軍曹は、自身のチームがリーダー資格を取得できると自信を示した。

「このコースには、FASチームのリーダーになりたくて参加した。現場で頼られる憲兵の大使的な存在になれることを目指している」

3人は、一日約12時間にわたって装備品の取扱いや警備上の戦術、戦闘訓練、格闘技術など幅広く修得した。そして、3日目が終わった後には任務命令を受け、第374憲兵中隊幹部へブリーフィングを行い幹部に適切な警備態勢を助言できる能力を示した。

疲労と寒さの中、3名は24時間体制で航空機の警備にあたり、模擬戦傷病者への対応や仮装敵部隊との接触を想定した訓練など、まざまな訓練シナリオに対応した。「本コースは、戦士としての精神を教え込むとともに、状況を客観的に判断する能力を養うこと目的としている。個人として参加し、将来のリーダーへと成長していく姿を見るのはとても意義深いことだ」とホッチキン上級空兵は語る。

13時間経った太陽が高く昇る頃、3人は正式にFASチームリーダーとしての認定を受けた。

横田基地で初めての公式FASコースを実施することで、第374憲兵中隊は即応力と演練を一層強化し、いかなる任務にも即応できる態勢を確立し続けている。